

中央区協働推進会議（第2回）議事要旨

1. 日時

平成20年1月31日（木）14:00～16:00

2. 場所

中央区役所別館6階A会議室

3. 出席者

【委員】

瀧澤利行（会長）、山岸秀雄（副会長）、山井理恵、古澤悦子、安嶋潔、豊田正文、小泉典久、斉藤進

【事務局】

地域振興課長、協働推進主査

（主な議題）

1. 中間支援のあり方、協働の仕組みづくりについて

〔議事の経過〕

1 各委員から提出された「協働意見シート」について事務局から説明がなされた。その後、協働推進の4つの柱（中間支援のあり方、協働の仕組みづくり、協働事業の評価、地域課題を解決していく人材の育成）のうち、中間支援のあり方、協働の仕組みづくり、について意見交換が行われた。委員からの主な意見等は以下のとおりである。

（1）中間支援のあり方について

- ・ 現在の「NPO・ボランティア団体交流サロン」は公設公営だが、公設民営で、場所は行政が確保して運営はNPO法人でやっていくという機運が一番盛り上がっている。
- ・ 単体として施設を整備することが望ましいが、当面、NPO・ボランティア団体交流サロンをうまく活用しながら、そこから機能を発展していくような方向性もある。
- ・ NPO・ボランティア団体交流サロンでは、NPOの活動を展開するなかで、専門的なアドバイス、助言や方向性を示すまでの機能が、現時点では期待できない。
- ・ 機能的な部分は現在実施している専門相談を拡張していけば、かなりカバーできる。あとは、ある程度、運営主体の問題に集約されてくる。

（2）協働の仕組みづくり

- ・ 中央区にオフィスを置いているNPOの半分以上は、全国規模の団体である。それを一つの中央区の特色とした場合に、どういう形で協働推進ができるか。資源はたく

さんあるが、それを区民に向けてどう開いていくかに難しさがある。

- ・ 中央区の現状では、NPOの活動そのものが地域にどう受け入れられるかという問題もある。プラットフォームのような場で、相互にいろいろな意見交換を行っていけば、一緒に協働として取り組む分野というのは、かなり幅広くある。
- ・ 提案型事業のような仕組みを無理やりつくらなくても、プラットフォームのような共通の議論のテーブルがある程度常設されていれば、そこにいろいろな課題を持ち込んで議論をして情報交換ができ、事業としてつながっていく形も考えられる。
- ・ 信頼関係は、頻繁に会っていないと生まれにくい。そういう場もあればいいと、NPO側も常々思っている。
- ・ 行政の役割等が明文化されるのであれば、条例ではなくてもマニュアルや基本指針でもよい。
- ・ 協働を進めていく際に、協働相手の組み方や、助成団体等との手のつなぎ方などさまざまなレベルでのマニュアルがある。具体的な実務マニュアルは必ずある程度整備した上で、区民に対してアピールしていくことが必要である。

2 次回会議については、3月14日（金）18時から行われることとなった。